参考資料−５ 欠席者意見

平成２４年３月１２日
策定委員会委員　●●●●

行田市都市計画マスタープラン第２回策定委員会への意見

何事を成すにも「人・もの・金・情報」の前提なしには、どんな優れたプランも「絵に描いた餅」である。

いただいた資料の人口数値は、２０年後７万人と想定されている。しからば財政的にも約２０％減の１９５億円程度かと考える。

少ない予算で事を成すとすれば、施策の絞込みしかないのではなかろうか。中でも高齢化による福祉関係費用は、益々増加することが考えられ、他施策への予算は減少せざるを得ない状況になるであろう。

このような観点から、重点項目を定め、そこに「人・もの・金・情報」を優先的につぎ込むしか考えられない。

そのように考えると、市民提案書の「特に進めるべき重点的な取り組み」は、是非プランに反映させたいものである。

資料の中の子ども会議のアンケートの１０番・１１番にはショックを受けましたが、これが人口社会減の本音の部分なのですね。（市民アンケートでも若い世代の転出願望は多く伺えます）

さて、計画への私見を申し述べます。

１　住みたいまちＮｏ１を目指す
　行田市民幸福度（GGH）指数をつくり、その向上を目指す。

２　コンパクトシティを目指す
　中心市街地やＪＲ行田駅周辺への集中投資

３　教育立市を目指す・・・・学ぶなら行田市で
　幼児教育から義務教育・高等教育・専門教育・職業教育・生涯教育の優れたまちづくり。

４　雇用環境の拡充
　企業や公共施設、研究施設等の誘致、地場産業の育成（高付加価値商品の開発）、観光や農業での雇用拡大。

５　豊かな自然環境の整備・・・・特に水と水辺環境の再生

（付記）

市民まちづくり会議や地域別懇談会では、マスタープランだけで終わりにしないで、今後も継続すべきであると考える。また、若い世代や女性がもっと参加できるような工夫も必要であると考える。そのことが、よく言われる市民と行政の協働によるまちづくりにつながって行くと思う。

以上

平成２４年３月１３日
策定委員会委員　●●●●

行田市都市計画マスタープラン第２回策定委員会への意見

１　まちづくりの方向性として、観光客にとって利用しやすい交通手段を整備する。
例えば、レンタサイクルの駅として、次の場所に設置し充実を図る。
（いずれの場所でも返却できるようにする）
①ＪＲ行田駅
②秩父鉄道の各駅（持田駅、行田市駅、東行田駅、武州荒木駅）
③さきたま古墳公園
④古代蓮の里
⑤利根大堰
⑥その他

２　自然災害に強いまちづくり（特に、地震・水害対策に力を入れて欲しい）
①河川の氾濫や浸水などに対する水害対策が必要である。
昭和４１年頃の台風により、長野中学校西側の星川が氾濫し、自衛隊が出動したことがある。
②市民の不安を払拭するための情報提供が必要ではないか。
③防災行政無線について、特に高齢者には内容が良く聞き取れないので改善が必要である。

３　小学校、中学校の統合（少子化に対し学校が多すぎる）
少子化に伴い、小・中学校の児童・生徒数が減少しており、見沼中学校では、２～３年で１学年に１学級となる見込みである。まずは、中学校を３～４校に統合すべきではないか。中学校を先に統合することにより、その後、小学校の統合の可能性が出てくると予想される。